

2015 年度 法政大学女子高等学校 学校自己評価報告書

| | |
|---------|---|
| 教育理念・目標 | <p>法政大学の建学の精神である「自由と進歩」のもとで、「自立」・「探究」・「共生」を追求する。野上弥生子「女性であるまえにまず人間であれ」を教育の指標として女子教育を継続・深化・発展させ、国際的に活躍しうる、グローバル社会で自立した女性の育成を目指す。</p> <p>●「自立」</p> <p>①主体的で自由な精神を持つ人格の育成(人格) 主体的・能動的な探究姿勢の確立(学び) 自律的・主体的な規範意識の育成と援助(モラル) 自立的・主体的に生きる力の育成と支援(キャリア)</p> <p>●「探究」</p> <p>①知の創造の主体としての自己の確立(主体) 自由な発想による探究心の育成と知的好奇心の喚起(探究) 科学的な視点・論理的な思考能力の育成(論理) 豊かで柔軟な感性・感受性の創造(感性)</p> <p>●「共生」</p> <p>①他者への豊かな想像力と自他の権利に対する意識の育成(想像力・権利) 多様な価値観や文化への深い理解の育成(多様な価値観・国際) 多様かつ論理的な主張に基づく対話や話し合いによる相互理解の形成(民主的精神) 寛容の精神の涵養(平和的共存)</p> |
|---------|---|

| | |
|------|--|
| 重点目標 | <p>①21 世紀型学力の育成を教育活動の主軸とする。</p> <p>②「協同的な学び」を取り入れた独自の教育メソッドを創造する。</p> <p>③往還型学習による確実な基礎力と主体的探究姿勢を確立する。</p> <p>④グローバル化に対応した多文化共生教育を展開する。</p> <p>⑤自主規律の理念に基づいた生徒自身のモラルの確立を促す。</p> <p>⑥生徒の可能性を学内にとどめず、積極的に社会的活動に参加させる。</p> <p>⑦保護者・近隣・社会に開かれた学校づくりを目指す。</p> |
|------|--|

共通課題

| No. | 評価基準 | 学校自己評価 | | | |
|-----|-----------------------------|---|--------|------|-------------|
| | | 年度目標 | | 年度評価 | |
| | | 現状と課題 | 具体的な取組 | 達成状況 | 次年度への課題と改善策 |
| 1 | 建学の精神 (建学の精神や理念の理解と意識化) | <p>法政大学の建学の精神である「自由と進歩」、本校の教育指針である野上弥生子「女性であるまえにまず人間であれ」に象徴されるような、普遍的な真理の追求を通しての人間性の開放、豊かに生きていくための学力・生きる力の育成を基本に据えながら、それらをさらに深化・発展させて、国際的に求められる 21 世紀型学力の育成を教育活動の主軸とした学校づくりをSGH(スーパーグローバルハイスクール)として目指す。建学の精神や本校の教育理念がSGHのプログラムの推進力となるよう、意識化していくことが課題である。2015 年度SGHのプログラムでの活動が次年度以降に有機的につながっていくよう活動している。</p> <p>なお、建学の精神のさらなる深化とともに、ここまで進めてきた国際化に対応する学校改革を進展させ、 <主体的に学び、考え、行動し、多様な他者とつながる 21 世紀の地球市民を育てる付属校>「法政大学国際高等学校」として、2018 年度に国際校化および共学化を進めている。</p> | | | |
| 2 | 組織運営 | <p>生徒・教員・保護者それぞれの活動は、民主的な組織活動を基本としている。HRでの話し合いをボトム・アップしていく生徒の組織活動は、例年、形式的に展開されるにとどまり安易な多数決主義が見られる一方で、生徒間の力で推進しようとする大きな流れも形成されてきている。生徒会総務では、煩雑な組織活動をできるだけ簡素のものに再編成して実質的なものを目指す改革の中で、総務会の継続性、実行委員会組織改革など、変革を進めている。</p> <p>教員間の組織活動は、運営委員会を中心に各部局が連携しながら民主的な討議・活動が展開されている。組織活動における連携には十分な討議が不可欠であるが、有限な時間の中で効率的な討議の進行を推進している。SGHプログラムにおいては、さまざま分掌の委員で構成するSGH推進委員会を定期的開催して全学的に推進している。</p> <p>また、年度末には、生徒会総務、教員、PTA の三者での対等な意見交換の場として、三者協議会を発足し、第一回協議会を開催した。</p> | | | |
| 3 | 教育活動 (教科、生活、進路、行事、自主活動等) | <p>生徒の自立的・主体的な「学び」となる活動を目指して日々の教育活動が行われており、受け身の姿勢から主体的な学びへの姿勢の転換が着実に進んでいる。</p> <p>【教科活動】教科活動では、従来までの一斉授業の形式から各教科がさまざまな手法を取り入れ、受動的な聞くことが主体の授業から、生徒自身が考え、他の生徒の言葉に耳を傾け、議論し発表するというアクティブ・ラーニングが多く取り入れられた授業へ転換している。この変化が、生徒の学習意欲向上に寄与していることは十分に実感され、同時に、生徒が主体的に授業に臨もうとする姿勢を多く見ることができるようになった。教員間でも公開授業や研究集会などを実施し、研究と実践を推進している。SGH 中間発表会では学外の教育者とともに公開授業をもとに授業研究を行った。</p> <p>【生活】自主規律の精神に則って、生徒自身が「自主規律」を捉え直す活動行われた。このような活動を通じて生徒一人ひとりの意識の変化が行動にあらわれている。こうした変化をいかに持続していくかが今後における課題だといえる。</p> <p>【行事】体育祭、文化祭「オレンジ祭」などの生徒会・生徒自身の委員会活動によって作り上げられる行事は、生徒が主体的に立案・実行している点で引き続き成果を上げているが、例年課題となっていた文化祭における「質の向上」は、SGH 活動・PASS 活動等の展開などによって、大きく前進している。一方で総括に</p> | | | |

| | | |
|---|---------------------------|---|
| | | <p>は生徒全体の意見を盛り込む工夫が継続しており、生徒全体で改善を検討しようとする主体的活動も行われている。今後、さらに生徒の自主活動・探究活動をどのように活性化していくかが課題である。</p> <p>【自主活動】2015年度は、SGHプログラム・PASS活動の本格な始動とともに、PASSに留まらない生徒の学外における自主活動・ボランティア活動が飛躍的に増加した。生徒の可能性を学外に伸ばしていこうとするこれまでの試みは確実に実を結んでいるといえる。近隣住民や様々な外部団体を巻き込んだ開かれた学校づくりを展開するために、学校フォーラム(四者協議会)や各種プロジェクトの実行の準備が引き続きなされている。</p> |
| 4 | 安全・保健管理 (保健、安全、防災、施設等) | <p>感染症予防と防災活動に積極的に取り組んでいる。感染症予防に関しては、生徒の予防意識啓蒙とあわせて、罹患者が発生した際のグループ内の他生徒の健康チェックのやり方・健康情報の収集と整理の仕方が確立している。また、休校措置・学級閉鎖・グループ活動禁止等を発動する大まかな条件とその期間の目安について、保健所と学校医の助言を仰ぐとともに、1)病原体の感染力 2)重症化の可能性 3)潜伏期間 4)未罹患者の抗体保持の可能性等に基づいて定めることにしている(例:H1N1 亜型インフルエンザの場合、同一学級内罹患者数1割で概ね5日間の学級閉鎖)。2015年度は学内での大規模流行はなく、休校措置・学級閉鎖ともに発動していない。</p> <p>防災活動では、近隣公立小学校・中学校と罹災者支援ネットワークを形成しており、罹災者支援対応訓練を行った。また、非常用物品の備蓄量・帰宅困難者の受け入れ可能状況などを含めて情報交換を行った。本校には、非常用簡易トイレ、電源の要らない灯油ストーブ、灯油備蓄、小型発電機、停電時使用可能な電話機、等に加えて、水:(全校生徒+教職員)×3日分、非常食:(全校生徒+教職員)×3日分、非常用毛布:(全校生徒+教職員)分、の備えがある。</p> |
| 5 | 連携 (保護者、卒業生、地域等) | <p>年に四回各ホームルームで実施されている「教育懇談会」で学校と保護者との連携がはかられている。さまざまな問題を出し合い、学校全体で問題解決をはかれるように取り組みがなされている。保護者の出席率も良好であり、PTA常任理事会と学校との連携も、各行事の開催、教育活動上の意見交換等、良好な関係が築かれている。2015年度は三者協議会を発足させた。次年度以降は協議会での三者の対話を活性化させたい。また、卒業生とは、主に同窓会を通して連携がなされている。</p> <p>近隣の小学校や地域でのイベントへのクラブ活動としての参加、近隣の保育園の防災訓練の場を提供、学校と地域とが交流する活動が具体的に継続できている。さらにPASS活動としても近隣の保育園・小学校での活動・連携を行っている。</p> |
| 6 | 大学との連携 | <p>2015年度当初に実施した在校生と法政大学長総長との対談をはじめ、大学教員を招いての授業や、大学の授業に生徒が参加する機会を多く設け、SGHプログラムでの実施も含め充実した取り組みがなされている。また、法政大学の各学部の教員を招いて学部紹介を毎年行っている。生徒の関心は高く、自己の進路を具体的に考える手立てとして有効に活用している。市ヶ谷、多摩、小金井キャンパスの見学会、模擬授業への参加など、生徒・保護者が各々の機会を設けて実施している。また、3年3学期の特別授業においても、各学部の課題をめぐって高校で授業が展開されている。</p> <p>なお、文部科学省の事業である「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」として1年目の活動してきた。本校のSGHプログラムでは大学、日本台湾教育センター、キリン株式会社、地域のさまざまな団体との連携のもと持続可能な社会の実現に向けて解決すべき諸問題を「多文化共生」「グローバルキャリア」「エンバイロメンタル・スタディーズ」の三領域に大別し、各領域を、実際社会での問題解決のアクションを体験するアプローチ:The Program “Your Awareness Saves Society”(PASS)と、専門家の講演やワークショップに参加し学術的に探究するアプローチ:「専門講座」の2つから学ぶ取り組みを行っている。2016年1月には本校で中間発表会を開催し、法政大学をはじめ、全国からの来場者ともに意見交換も実施した。</p> <p>さまざまな連携をグローバルな教育活動に十分生かせるよう研究の継続が課題となる。</p> |

付属校独自課題

| No. | 評価基準 | 学校自己評価 | | | |
|-----|----------|--|--------|------|-------------|
| | | 年度目標 | | 年度評価 | |
| | | 現状と課題 | 具体的な取組 | 達成状況 | 次年度への課題と改善策 |
| 1 | 授業改革 | 生徒の主体的、能動的な学習姿勢がなかなか定着しない現状を打開するための授業改革は、SGHプログラムの効果もあって一層進捗している。生徒の少人数のグループによって課題を解決していく「協同的な学び」やアクティブ・ラーニングがさまざまな授業で取り入れられている。さらに、学外との連携の中で、自ら学び行動する姿勢が定着しつつある。また、教員相互の授業研究も複数回行われ、授業方法のさまざまな試みを共有する場が設けられている。さらに、授業改革の成果と課題について議論し合う教育研究集会も開催した。 | | | |
| 2 | 自主活動の活性化 | 生徒の活動やその可能性を学外に解放し、積極的に社会参加を促す活動は、SGHプログラムにおいて教育課程としても推進しているが、その枠にとどまらず、さらに自主的な参加として、地域のボランティア活動への積極的な参加や、高校生模擬裁判選手権関東大会への参加(準優勝)など、個々の関心を実践する多彩な活動が行われている。また、学内に発足しているECOアクションチームは、「エコ・アクション・プロジェクトチーム」を立ち上げ、横浜市環境創造局からの地元における環境問題と環境管理計画の示唆を受け校内での活動を推進している。このように生徒自身が学外とのつながりの中で活動しようとする試みをより活発な活動へとつなげていきたい。 | | | |
| 3 | 広報活動の活性化 | 継続して重点的に広報活動を行った。より多くの入試説明へ参加し、2015年度も学校案内とは別に、学校としての考え方や、生徒の実態がわかるような生の声や写真で構成したリーフレットを複数枚配布した。また、学校の日常を見てもらおう「授業見学会」を継続して実施し、本校の教育への理解の浸透を図った。本校の教育内容や、本校での学園生活のイメージを、志望への動機につなげられるような活動を行っていきたい。 | | | |